

「あずみ」の社会環境に於ける登場人物の
恩、義理、人情の分析

アメリア

0 2 4 2 0 5 5

日本文学部

マラナティン教大学

バンボン

2 0 0 7

序論

日本の社会は縦社会と呼ばれ、上下関係を持つということである、この関係は社会構成を守るために非常に大事な役割を持っている。社会的地位の高い人たちは地位がより低い人たちを守らなければならないという義務感を感じ、その一方で、地位の低い人たちは尊敬の気持ちの形として、恩返しをしなければならないと思うようになる。

日本社会の礼儀作法に基づいて、以上に述べた事は恩と義理と深い関わり合いを持っている。恩はありがたい事、他人の好意から生まれるものである、これによって、恩を受けた側が恩を授けた側より地位が低いと感じられたり、解釈されがちになっている。ある人が他の人から恩を受けたら、そのひとに恩返しをしなければならない。この事を“義理”と言う。

義理は信頼または恩返しをしなければという気持ちから生まれるものである。義理には恩返しをするという意味も含まれている。したがって義理は誰かから恩を受けたことによって生まれ、それを表現するための手段でもある。

義理には二種類あり、世間に対する義理と名声に対する義理に分かれている。映画“あずみ”の中で描かれたのは名声に対する義理である。これは名声に傷が付かないように守らなければならないという義理である、名声に傷が付いた事によって自殺にまで人を追い込んでしまうこともある。

以上に述べた恩と義理の関係は映画“あずみ”の中で描かれている。この映画はある若者のグループが“げっさい”というひとに幼い頃から大人になるまで育てられたという事から始まる。“げっさい”のこの若者たちに対する恩が若者たちの恩返しに対する義務感を生み出すようになる。

若者たちが選んだ恩返しの形は“げっさい”が彼等に与えた任務を遂行する事であった、任務遂行は非常に困難であったが“げっさい”への義理があったからこそ、若者たちは無事任務遂行を成し遂げたという話である。

恩返しをする事が社会の中で色々な行動または現象を起こしている。これはグループのなかでの相互関係か個人の行動の変化やプライド、協力、感謝の気持ちや葛藤など生み出す。

相互関係とは二人または二人以上の関係の事を指し、個々がお互いに影響、変化、直し合う事である。これらのことが個々の意志を周りに合わせる事によって考え方や行動の変化を生む。

その一方で、グループの一員としていたいという気持ちも強く影響している。これはグループの他のメンバーからの高い評価やグループへの満足感そして感謝の気持ちから生まれるものである。

それだけではなく、各自が恩返しをするために協力し合う事によって協力の要素も生まれるが、各自良い事をしようとしても論争は避けられない。

恩と義理以外に“人情”というものがある。人情はある環境のなかで親しみが生まれたときに感じられるものである。この人情と義理の違いをめぐって議論も交わされることもある。

本論

恩は誰かからの恩恵または好意の事である

映画“あずみ”の中で見られる恩は次の通りである：

- あずみ、あまぎ、ひゅうが、ながら、うきはを幼い頃から世話をしたげっさいの恩。

げっさいが彼等の世話を始めたことでグループが出来た。グループとは一つのユニット、人の集まりで成り立っているものであり、ある目的を達成するための手段であ

る。

- びじょまるの牢獄からの解放そして死刑を逃れるのを手伝ったことによるびじょまるに対するきよまさの恩。

きよまさの恩によってびじょまるはきよまさの言うとおりに行動しなくてはならなくなった。

- 忍者としてのながとの五人のげっさいの弟子たちに対する恩。

げっさいの弟子たちは任務を遂行するうえでながとに手伝ってもらった、この事を合同作業とよび、つまりグループの任務を遂行するためには密偵を送り込む事が必要でと言う事である。

- 殺し屋グループから助けてもらったやえにたいするあずみとひゅがの恩。

義理とは誰かから授かった恩に対する恩返しの事である。

映画“あずみ”の中で見られる義理は次の通りである :

- あずみ、あまぎ、ひゅが、ながらとうきはのげっさいに対する義理は任務を遂行する事である。

義理に見られる関係は上下関係である。げっさいに対する義理を果たすのは困難なことであった。げっさいの命令はグループのメンバーに好き嫌いなどの色々な感情を抱かせる事になるが、げっさいへの恩返しのためであったからやり遂げた。

- げっさいに対するうきはの義理はげっさいがきよまさのグループに捕らえられた時、げっさいはじぶんの事は気にせず任務遂行に専念するよううきはに命じたがうきははげっさいを助けた。

げっさいを助けたうきはの行動はグループのメンバーの一人が敵に攻められた時、他のメンバーが攻められているメンバーを助けるという行動である。

- げっさいに対するあまぎの義理は腕を忍者の毒でやられ痛んでいる時に、あえてげっ

さいや他の仲間にはその事を伝えなかったことである。

名声に対する義理は、その名声を傷つけないようにする事である。名声への義理のために痛みをこらえることが必要とされる。名声に対する義理は自害との関係が深く、名声を守りきれなかった場合はあまぎのように自害することもしばしばである。

名声への義理は自尊心と深い関わりがある。自尊心はとても大切なことであり、これ事によって日本人が自殺をする事も起きる事がる。

- げっさいに対するあずみの義理。

義理はしなければいけないという義務感とも解釈できる。幼い頃から受けてきたげっさいの恩はあずみのげっさいに対する義理を生み、義理を果たすにはげっさいの命令に従う事であった。

げっさいへの義理を果たすため、あずみはある事を余儀なくする。それは彼女の女性的な面を見せず、常に強く生きなくてはいけなかった。このことによって彼女は他の女性のようにお化粧などできなくなってしまったのである。

- げっさいに対するひゅがの義理はびじょまると戦わなければいけないことであった。

恩返しをするにあたって日本人は苦勞を感じる事が少なくない。義理のためひゅがはやえへの自分の気持ちをすて命を落とす事になったのである。

- きおまさに対するびじょまるの義理はげっさいと五人の弟子を殺すという命令に従わなければいけなかったときである。

びじょまるはきよまさの脱獄を手伝ってくれた恩によってげっさいと五人の弟子を殺す事を決めた。

人情とは愛情、同情、感動などの事である。

映画“あずみ”の中で見られる人情は次の通りである :

- やえに対するひゅがの人情

ひゅががやえに惹かれ、次第により親密な関係へと成っていった。

- げっさいとなちに対するあずみの人情

幼い頃を共に過ごしたことから生まれた愛情。

結論

恩と義理は社会生活の背景となっている文化から生まれたものである。文化はあるグループのなかでのメンバーの関わり合いなどから影響を受けるものである。

文化要素としてみる恩、義理、人情を分析した結果、恩返しは簡単な事ではないが日本人にとってはしなくてはいけない事である。恩、義理、人情は日本人の生活には欠かせない事だと映画“あずみ”にも描かれている。したがって、恩、義理、人情はこれからも日本人の生活の中で守られ、なくなる事はないだろう。

DAFTAR ISI

KATA PENGANTAR

DAFTAR ISI

BAB I PENDAHULUAN

1.1 Latar Belakang Masalah	1
1.2 Pembatasan Masalah	6
1.3 Tujuan Penelitian	7
1.4 Metode Penelitian	7
1.5 Organisasi Penulisan	14

BAB II ON, GIRI DAN NINJOU

2.1 On	16
2.2 Pembagian On	18
2.2.1 Ko On	18
2.2.2 Oya On	19
2.2.3 Nushi On	19
2.2.4 Shi No On	19
2.3 Giri	20
2.3.1 Giri Terhadap Dunia	24
2.3.2 Giri Terhadap Nama	25
2.4 Ninjou	27

BAB III ON, GIRI DAN NINJOU DALAM LINGKUNGAN SOSIAL

PARA TOKOH YANG TERDAPAT DALAM FILM AZUMI

3.1 ON	30
3.1.1 On yang diterima oleh Azumi dan teman-temannya	30
Terjadinya kesatuan kelompok dalam orientasi Psikologi	
Sosial	31
Interaksi sosial	32
3.1.2 On yang berasal dari Ninja sebagai mata-mata Gessai	33
Tugas Konjungtif dalam kelompok	34
3.1.3 On yang diterima oleh Bijomaru	34
Rasa terima kasih merupakan faktor dari interaksi	35
3.1.4 On yang diterima oleh Yae dari Azumi dan Hyuga	35
Distress diri yang berasal dari Azumi dan Hyuga	37
3.2 GIRI	
3.2.1 Giri yang dilakukan oleh tokoh, Azumi, Hyuga, Amagi,	
Ukiha dan Nagara	38
Sikap sosial dalam lingkungan sosial	40
3.2.2 Giri yang dilakukan oleh Ukiha	42
Kerja sama sebagai bentuk interaksi di dalam lingkungan sosial	43
3.2.3 Giri yang dilakukan oleh Amagi	44
Konflik sebagai bentuk interaksi dalam	48
lingkungan sosial	
Harga diri sebagai fasilitas sosial	48

3.2.4	Giri yang dilakukan oleh Azumi	
	Penyesuaian diri dalam lingkungan sosial	51
	Tekanan Sosial	52
3.2.5	Giri yang dilakukan oleh Hyuga	52
3.3	Ninjou	54
3.3.1	Ninjou Hyuga terhadap Yae	54
	Ninjou dalam suatu hubungan	54
3.3.2	Ninjou diantara Nachi dan Azumi	55
3.3.3	Ninjou Azumi terhadap Gessai	56
	Kasih sayang yang menghasilkan perbuatan positif	57
3.3.4	Konflik antara Ninjou dan Giri	57
	Tanggung jawab sosial dalam konflik	59

BAB IV KESIMPULAN

SINOPSIS

DAFTAR PUSTAKA

LAMPIRAN : PEMERAN DALAM FILM AZUMI

: GAMBAR DALAM ADEGAN FILM AZUMI

DAFTAR LAMPIRAN

1. PEMERAN DALAM FILM AZUMI

2. GAMBAR DALAM ADEGAN FILM AZUMI